

# DXお悩み相談室

第6回 「システムの老朽化」のお悩み

## レガシーシステムの危険度を 4つのポイントでチェック!



**Fさん(経営者)**：当社の経理システムがだいぶ老朽化しており、最近ときどき不具合を起こしているようです。そのたびに社内のIT担当者が呼べてなんとか復旧させていますが、「このシステムを導入してからだいぶ年月が経っているので、現在のIT担当者には構造がわからず、根本的な解決法が見つからない」と言います。「のまま使い続けて大丈夫でしょうか？」

**柴山**：まさに、今日日本の多くの企業で起ころうとしている「レガシーシステム」の問題ですね。古いPCやピュータシステムやソフトウェアで、今も業務に使われ続けているものをレガシーシステムと呼ぶのですが、日本の中小企業では、約6割の会社に残っています。

**Fさん**：それは、やはりまずいのでしょうか？当社は資金にも人手にもあまり余裕がないので、使えるものはなるべく長く使いたいとも思うのですが。

**柴山**：レガシーシステムのリスクについては、会社の経営方針やシステムの状況によって違うので一概には言えませんが、老朽化したシステムは、ある日突然停止して業務が麻痺するような可能性があります。一方、当面は使い続けて大きな問題は起こらないものもあります。Fさんは気が気になるのは、まずは今の自社システムにどれ

くらいのリスクがあるか、ですよね。  
**Fさん**：はい、まずはそれを知りたいです！  
**柴山**：それを確認するための4つのチェックポイントがあります。御社のシステムにいくつ当てはまるか、確認してみてください。

### 【4つのチェックポイント】

①担当者が「いつ壊れてもおかしくない」というような発言をしている

②ソフトウェアのサポート期限が切れている  
(3月)1回以上トラブルが発生している

③保守費用がかさんでいる(年間の保守費用がシステム価値の20%を超えている)

**柴山**：①から③は当てはまっています。④の保守費用は、ほとんど社内で対応しているのでコストはかかるいませんが、IT担当者はシステム復旧にかなり時間を取られているので、その人件費を考えると結構な金額になりますね。

**柴山**：このチェックポイントは、システムの危険信号と理解してください。これが3つ以上当てはまるとき、かなり危ない状態といえます。対症療法ではなく、システム刷新の検討をおすすめします。

**Fさん**：やはりそうですね……。

**柴山**：まず、今すぐおすすめしたいのは、レガシーシステムの中にあるデータのバックアップです。最悪、システム 자체はダウンしてしまってもなんとかなるんですよ。それよりも大事なのは、中にあるデータ。「データ」と「ダメ」になってしまふと取り返しがつかず、業務や事業に支障をきたします。

**Fさん**：経理システムのデータが飛んでしまったり、経費精算も社員の給与支払いもできなくなってしまうで、かなりの混乱が起ると思うます。

**柴山**：重要なデータの確保は最優先で行ってください。そのうえで、次のステップは3つほど考えられます。1つは、昔の請求書などを確認して現システムを構築した会社を見つけて連絡すること。2つめは、「この機会に自社のシステムを見直したい」という場合におすすめの方法で、システムの「IT診断」を受けることです。現在使っているシステムやIT環境を総合的に評価して問題点や改善点を明らかにするプロセスで、いわば「システムの健康診断」です。コンサルティング

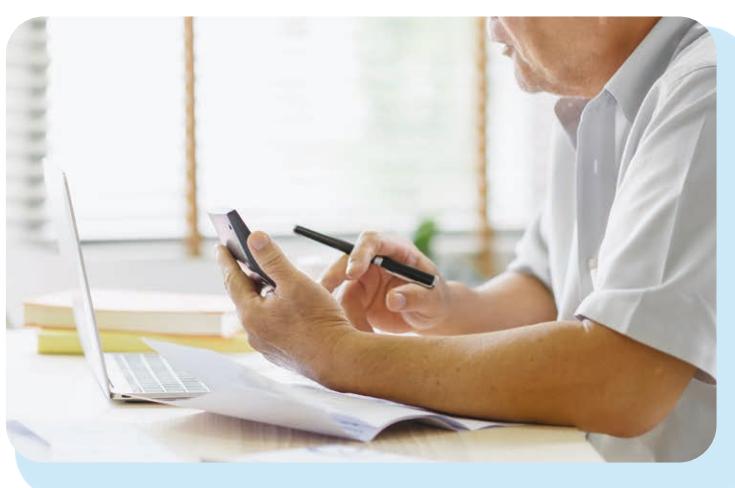
ファームなどに依頼すると、例えば現在の経理システムが停止した場合にどれくらいの影響があるのか、などといった影響調査も含めてやってもららうことことができます。

**Fさん**：なるほど。それも検討してみたいと思います。3つめは何ですか？

**柴山**：御社も含めて多くの中小企業には、現時点ではこれが一番現実的でおすすめだとと思う利用您的ですが、「SaaS(Software as a Service)」の利用です。SaaSは簡単に言うと、インターネット経由で使えるソフトウェアです。経理業務に使えるSaaSは数多く提供されているので、自社に合うものを選べます。推しポイントとしては、セキュリティやデータの保全に加えて、経理業務に必ず付きまとった法改正への対応などもサービス提供側が担ってくれるので、経理の方の負担が減ります。

**Fさん**：ああ、それは助かります。経理担当者の残業も減りますね。システムの刷新は「ストもかかるし現場に負担もかかるので、リスクが高いと思って躊躇していたのですが、前向きに考えたいたいと思います。

**柴山**：そうですね。今の状況では、「何もしないリスク」というのは、実は、挑戦するリスクよりも大きいと私は考えていました。短期的なリスクだけでなく、中長期的に見るとビジネスの機会損失や競争力の低下、既存システムを維



回答者



柴山 治  
(しばやま・おさむ)  
デジタル戦略プランナー/  
株式会社YOHACK CEO

米国ワシントン大学 経営学修士課程(Global Executive MBA)修了。ITベンチャー、コンサルティングファーム、外資系生命保険会社等を経て、現在は株式会社YOHACK代表。企業の成長フェーズや課題に応じた、テラーメイドの支援を提供している。著書に『日本型デジタル戦略』等がある。

※DXに関するお悩みは、どんなことでもお気軽にご相談ください。